

全国農業

NATIONAL
AGRICULTURAL
NEWS

新聞

2023年(令和5年)

2月17日 金曜日
月4回金曜日発行

首都圏

「ぎゅぎゅっとねぎ」おいしさ凝縮

県内販売でブランド化

甲斐市 耕作放棄地解消も



前列右が小林会長、同左が花田委員

【山梨】甲斐市双葉地区でJA梨北ねぎ部会が栽培する「ぎゅぎゅっとねぎ」が収穫期を迎えている。

ぎゅぎゅっとねぎの由来は、双葉地区の土壌が固く、ネギが締め付ければおいしさをぎゅっと閉

じ込めるという意味から。同部会所属の9人が出荷している。

地区の自家用ネギが古くからおいしいと評判だったことに着目した有志が、県内流通ネギの産地を調べてみるとほとんどが他県産だった。そこ

で、県内販売を前提に産地化すれば、シャキシャキ感を保ったまま店頭に並べられ、地産地消も推進できると考えたことが同部会発足のきっかけだ。2018年から本格的な栽培が始まった。

ネギの産地化にはブランド力を上げ生産者を増やして、地区内の耕作放棄地解消につなげるとの狙いも込められている。同部会メンバーで同市農業委員の花田弘樹さんは「退職帰農者などを中心に技術を伝え、部会員を増やしたい」と語る。

また、同部会長の小林敏夫さんは「今後出荷量を増やし、ぎゅぎゅっとねぎのおいしさと名前を多くの人に知ってもらいたい」と力強く話した。